

事案名	第 4 1 海軍航空廠の事案（北海道 1 - 1 - 1）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume [1] ・ 「化学兵器調査ノ件報告」昭和 2 0 年 1 1 月 5 日 [2] ・ 「化学戦資材ノ件回答」昭和 2 1 年 3 月 9 日 [3] ・ 「浜名湖に投棄された軍用ガスの処分について（通知）」昭和 2 4 年 1 2 月 2 8 日 [4] ・ 「各航空廠引渡目録」 2 / 2 [5] ・ 「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料 1 の 2 [6]
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「航空基地図（本土関係）」 [A 1] ・ 「旧軍毒ガス弾等に関する情報収集について」 [A 2] ・ 『千歳飛行場 1 9 2 6 - 1 9 4 5』昭和 3 3 年 7 月 [A 3] ・ 『平成 1 6 年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』 [A 4] ・ 「昭和 4 8 年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について（総括表）」及び「昭和 4 8 年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について」 [A 5]
平成 1 5 年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 終戦時に第 4 1 海軍航空廠（千歳・美幌）にはマスタード 6 0 k g 爆弾 2 1 7 発が存在していたと記載されている [1]。 ・ 終戦時に、北海道千歳第 4 1 海軍航空廠には、6 番 1 号爆弾 2 1 7 発が存在していたと記載されている [2]。 ・ 昭和 2 0 年 9 月 2 日に、北海道千歳第 4 1 海軍航空廠にはガス爆弾 2 1 7 発が存在していたと記載されている [3]。 ・ 終戦時に、第 4 1 海軍航空廠千歳工場には、イペリット爆弾装着用缶 2 1 7 個（内容量計 3 , 6 8 9 k g ）が存在していたと記載されている [4]。 ・ 終戦後の段階で、第 4 1 海軍航空廠千歳には 6 0 k g 1 号爆弾 2 1 7 個が存在していたと記載されている [5]。 ・ 資料によれば、終戦時に海軍航空廠千歳工場にはイペリット 3 . 7 t が存在していたと記載されている [6]。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各海軍航空廠工場にあったイペリットの爆弾装填用缶は昭和 2 1 年 8 月頃までの間に米軍の監督指示により海中に投棄処分されたと記載されている [4]。

<p>新たな情報</p>	<p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦時中の地図に「特殊爆弾倉庫」の場所が示されている〔A 1〕。それに該当する位置は、旧海軍の地図の縮尺に基づき、現在の道路及び河川の位置関係からおおむね位置を推定することができた〔A 2〕。 ・昭和16年、木更津所在の第2海軍空廠の支廠が千歳に設けられ、第2海軍空廠（大湊）支廠千歳分工場が設置された。昭和17年4月1日に大湊支廠は第41海軍航空廠へと発展し、千歳分工場は同航空廠千歳支廠となった。さらに昭和19年10月1日には、千歳支廠は第41海軍航空廠となり、大湊は同航空廠大湊支廠へと変更された〔A 3〕。 ・第41海軍航空廠跡は現在の航空自衛隊千歳基地の北端部分と自衛隊官舎に相当する〔A 4〕〔A 5〕。 ・第1千歳航空基地には、第41海軍航空廠及びその関連施設が存在していたことが記されている〔A 1〕。
--------------	---

事案名	米軍千歳キャンプ第3基地の事案（北海道1 - 1 - 2）
フォローアップ調査資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『北海道新聞』昭和30年3月22日・同夕刊〔7〕 ・『毎日新聞』昭和30年3月22日〔8〕
追加資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「航空基地図（本土関係）」〔A1〕 ・あれそれこれ博覧会 ホームページ （http://www.asahi-net.or.jp/~ku3n-kym/heiki7/chitose/chito.html）〔A2〕 ・「千歳市と基地 平成12年度版」〔A3〕 ・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A4〕
平成15年度フォローアップ調査報告書の要約	<p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料によれば、昭和30年3月14日、米軍千歳キャンプ第3基地野外集積所で集積弾薬の自衛隊への引き渡し作業の一部として前記弾薬集積所から掘り出した空ボンベを作業員が洗浄していたところ、残っていた液の糜爛性ガスにより作業員20数名が被災し、目が見えなくなったり呼吸困難、火ぶくれの症状があらわれた。作業を手伝った自衛隊員約10名も軽いガス中毒を起こしたと記載されている〔7〕〔8〕。 <p>なお、記事の中では毒ガスが旧日本軍のものであるのかどうかについては記されていない。</p>
新たな情報	<p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦時中の地図に第2及び3千歳航空基地の位置が示されている〔A1〕。 ・昭和14年に海軍航空隊が千歳に開隊し、昭和16年に農場を買収して第2基地・第3基地が建設されたが、終戦とともに米軍が進駐し、さらに土地の接收が拡大された〔A2〕。 ・昭和29年、朝鮮戦争の終結にともない、米軍の撤退が始まり、昭和31年3月には第3基地の一部が返還され、昭和34年以後、米軍の施設は次第に第3基地に集結された〔A3〕。 ・昭和45年12月28日に米軍基地は閉鎖し、昭和50年6月30日に米軍は完全に撤退した〔A3〕。 ・被災事故のあった米軍千歳キャンプ第3基地は、現在の陸上自衛隊東千歳駐屯地になっている〔A4〕。